

在京同窓会創立70周年を迎え、新たな活動のスタートへ

同窓会を「絆を深め」「楽しむ」場として活用する

松原秀幸 (高19回 在京飯田高校同窓会会長)

『稻穂』 創刊20周年

多くの皆様のご支援・ご協力に支えられ在京飯田高校同窓会誌『稻穂』は、創刊20周年を迎えることができました。この間、五百余名の方々(在京同窓会員の約1割)にご執筆を頂きました。厚くお礼を申し上げます。

創刊号には、

・ 発刊にあたって「感動を語ろう、時代の心を伝えよう」

・ 『稻穂』の由来・格調高き言葉『稻穂(とうすい)』等の携わった方々の思いが語られています。

『稻穂』を読む者は、社会人となった同窓生の活躍の物語を知り、財産を分け与えていただくことで、共感し、そして、飯田高校卒業生の仲間としての自負を抱きます。今後とも皆様の「とっておきの物語」の積極的な投稿をお願い致します。

編集委員会の運営についてお話ししますと、諸物価高騰等により発刊が資金面で徐々に厳しくなっております。協賛広告・協賛金・サポーター支援等多くの皆様からご協力を頂いておりますが、引き続き宜しくお願い致します。

本号より編集長が原誠(高23回)から栗下修一(高21回)に交代致しました。また、編集委員の募集も常時行っております。皆様の編集委員会へのご協力・ご支援を宜しくお願い致します。

持続可能な新たな同窓会活動を目指して

在京同窓会は、昭和28年5月に創立、今年で70周年の古希を迎えることができました。我が故郷の



●まつばら・ひでゆき

上飯田出身。放送委員会・落語班。沖電気工業、関連会社社長を経て、OKIグループの事業継続マネジメントのアドバイザー。スポーツライブ観戦、純文学系の本読み(今年は源氏物語・与謝野/谷崎訳の再読破)

飯田市立動物園の開園やリンゴ並木に植樹がされたのと時を同じくしています。これらは飯田の多くの皆さんに引き継がれ・守られて来ています。同様に在京同窓会も多くの先輩のご努力に支えられて継続してきました。『稻穂』創刊号の「在京同窓会草創期の歩み」／同第10号の「六十年の歩みを振り返って」をお読みください（在京同窓会ホームページ・『稻穂』に掲載）。

創立60周年時には、在京会員（名簿登録者）は、四千五百余名とありますが、令和4年には、三千八百余名と大幅に減少しています。また、維持会費の納入率も減少傾向にあり、同窓会の維持に支障を来しつつあります。これはご高齢会員の退会と若い方の在京同窓会への現住所未登録が要因と思われまます。是非、若い方への現住所登録の働きかけと継続的な維持会費納入をお願い致します。ポストコロナ時代の新たなスタートとして、更に持続可能な同窓会活動を目指し、活動の活性化を図る取り組みを実施してまいります。

- ・ 年度別幹事の積極的参加を推進
- ・ 秋から待望の「歩こう会」の再開
- ・ 新たに在京同窓生を講師とした「セミナー」の開始

4年振りに通常の定期総会を実施（懇親会、喜寿のお祝い復活）

同窓会は、同窓生の再会の機会として、また懐かしき高校時代を・我が故郷を語る場を提供しています。青春の記憶はいつまでもそのまま置いてくれ、ふとその時が浮かんでくる、自分が老いて行くことを忘れ、語り合える、また楽しめる。

総会開始時の全員の校歌斉唱は誰もが感慨を覚えます。今年度の総会幹事学年は高38回生・48回生です。総会運営のコンセプトとして「各年代の同窓生の思いを大切にしつつ、一人でも多くの方が参加する意義を高められるようなあり方を模索したい」との思いで準備しております。

久しぶりの通常の定期総会の開催です。以前のように、200名を超える参加を期待しております。また、喜寿祝はコロナ禍で実施できなかった学年を含め、高14回〜高17回を合同で行います。

皆様の元気なお姿にお目にかかれることを楽しみにしております。詳細は「令和5年在京飯田高校同窓会・定期総会ご案内」をご覧ください。